

～東京の海をあなたの職場に～

海技職の紹介

漁業調査指導船の役割と海技職の業務

・漁業調査指導船の主な業務

漁業調査指導船では、海洋観測や漁場調査を行っています。船により多少業務内容は異なりますが、小笠原海域担当の「興洋」では、毎月1回18定点の水温を測定し、漁業者等の関係機関への情報提供しているほか、ネット調査やたて縄調査によるアカイセエビやメカジキの生態解明のための調査、密漁を防止するための漁業取締等を行っています。

・海技職の業務内容

各事業所の研究員と協力して、漁業調査指導船を運航し、運航計画や修繕計画を立てるなど管理運用するのが海技職の主な業務となっています。また、海技職は「航海士」「機関士」「甲板員」に大きく分けられ、それぞれの役割に応じた業務に従事します。

研究員・海技職員同士のチームワークが大変重要な仕事になっています。



漁業調査指導船「興洋」

勤務地の紹介

・島しょ農林水産総合センターと小笠原水産センターについて

勤務地は東京都内の島にある各水産試験場です。

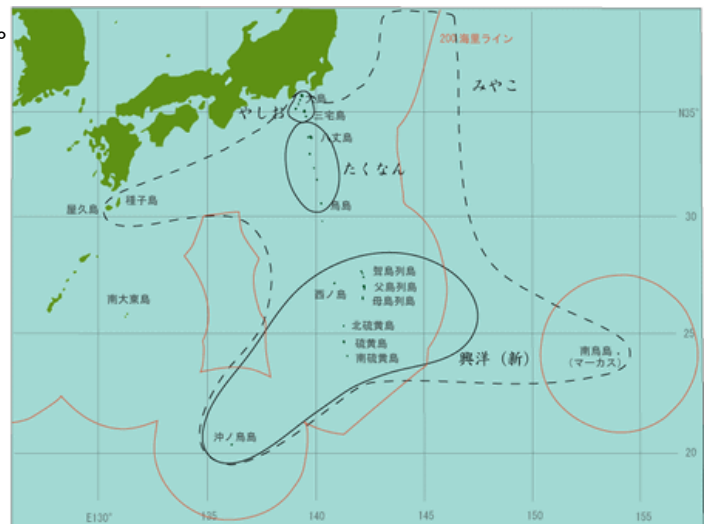
島しょ農林水産総合センターは本所が東京都港区、出張所が大島、八丈島等であり、東京の川、海、島における農林水産業の一体的振興に努めています。

小笠原水産センターは父島にあり、小笠原海域、沖ノ鳥島海域等の漁業活動を支援し、小笠原の産業を活性化させるための調査・研究を行っています。

・漁業調査指導船の一覧・概要

漁業調査指導船は全部で4隻あり、伊豆諸島から小笠原諸島、沖ノ鳥島まで広大な面積を所管しています。

- ・みやこ 189 t (大島事業所)
- ・やしお 117 t (大島事業所)
- ・たくなん 44 t (八丈事業所)
- ・興洋 87 t (小笠原水産センター)



海技職の1日のスケジュール

○ 航海士

本船の航海士は、操船以外にも、甲板業務、調査業務などさまざまな業務を行っています。

- 06:30 起床、朝食
- 07:00 出勤、底釣り調査のための漁具、餌を準備
- 07:30 出港準備
- 07:50 出港
- 08:00 昼食仕込み
- 09:30 漁場到着、底釣り調査開始
- 10:50 昼食仕込み
- 11:30 昼食
- 12:30 底釣り調査再開
- 15:00 底釣り調査終了、帰港
- 16:30 入港、船内掃除、明日の調査準備
- 17:00 船内でミーティング
- 17:15 退勤
- 18:00 野球の練習
- 20:00 夕食、入浴
- 23:00 就寝

○ 機関士

機関士も、航海士同様、機関業務を行いながら、調査業務を行います。

- 06:30 起床、朝食
- 07:15 出勤、機関場点検、電源切り替え
- 07:30 エンジン始動
- 07:50 出港
- 08:00 ワッチ
- 09:30 漁場到着、底釣り調査開始
- 12:00 昼食
- 12:30 底釣り調査再開
- 15:00 底釣り調査終了、帰港
- 16:30 入港
- 17:00 エンジン停止、船内でミーティング
- 17:15 退勤
- 17:30 磯でアオリイカ釣り
- 20:30 帰宅、釣ったイカを調理
- 21:00 入浴、夕食
- 23:30 就寝

先輩職員の紹介

興洋 一等航海士 白倉 聡

平成24年入都



現在の仕事内容



海洋観測、漁業調査等を行い、漁業者に役立つ情報を得ることが仕事です。航海士としての当直や操船はもちろんのこと、調査に必要な機器の操作や漁具を用いた漁撈も行います。沖に出ない日は、次の調査の準備や船の整備を行っています。

先輩からのメッセージ

少人数の船ですので、機関士や通信士も甲板業務を行っており、船員全員のチームワークが不可欠です。自分たちの仕事が都民のため、そして子供たちの未来につながるように、有意義な船と一緒にしていきませんか！



父島（小笠原諸島）の紹介

東京から南へ約 1000 kmの超遠隔地である小笠原諸島。内地と小笠原との交通アクセスは、東京港竹芝桟橋から片道 24 時間、概ね 6 日に 1 便運航される定期船「おがさわ丸」、通称「おが丸」に限られています。ここでは、赴任を見据えた小笠原の暮らしと魅力について父島をメインに紹介していきたいと思います。

島内での暮らし

- (1) 交通、インターネット環境など …… 島内は公共交通機関が発達しておらず、多くの方が自家用車、バイク、自転車で移動しています。光ファイバーが開通しており、インターネットは快適に利用できます。
- (2) 食料、日用品事情 …… 1 週間に一度おが丸で運ばれてきた商品が入荷され、その日は週一番商店が混雑します。商店で手に入らないもの等は、注文してすぐには届きませんが、Amazon 等の通信販売を利用している人が多いです。
- (3) 医療 …… 村営診療所や民間の歯科医院があります。一般的な診療は島内で受けることは出来ますが、島内で対応できない怪我や病気の患者が発生した時には、自衛隊のヘリや飛行機で内地の病院へ搬送されます。
- (4) 教育・子育て …… 父島には小学校、中学校、高校や、保育園などの託児施設もあります。東京の離島の中では、比較的に子供の数も多く、安心して子育てができる環境になっています。また、習い事の種類も多く、太鼓、フラダンス、英会話、スポーツ全般と多くの子供たちが伸び伸びと活動しています。
- (5) 娯楽等 …… 自然が豊かなので、釣りやダイビング、トレッキングを趣味にしている方も多くおり、スポーツや楽器などのサークル活動も盛んにおこなわれています。そのため、気の合う仲間も見つけやすいと思います。さらに、飲食店も充実しており、お酒が好きな人も多くいます。

島の魅力

最後の秘境や楽園と呼ばれている世界自然遺産に指定されている大自然が広がっています。海に行けば、クジラやウミガメ、色とりどりの珊瑚や魚を気軽に見ることができます。また、一步山や森を散策すると、植物や鳥などの固有種の観察を楽しむこともできます。

市街地には南国感を感じられるハイビスカス、バナナ、ヤシの木などにあふれており、市街地の近くには言葉を失うくらい美しい砂浜がたくさんあります。強い日差し、透明で碧い海や満点の星空と相まって島全体が華やかであり、散歩やそこにいるだけでリフレッシュすることができます。

さらに、島ならではの環境・内地から移住してきた人に寛容な島民性も相まって、お互いに助け合って生活をする雰囲気があります。

島の生活がおが丸の運航に合わせて動いており、少し不便だからこそその生活サイクルや文化ができていて、それもまた魅力であると言えます。そんな小笠原でぜひ動いてみませんか？



聞いてみたい あんなこと こんなこと

よくある質問

Q1) 一度の航海期間はどのくらいですか？

A1) 通常の調査航海の場合、基本的に日帰りです。毎日8:00頃出船、16:00過ぎに入港し、その日の片付け、次の日の調査の準備をした後、解散となります。年に2度予定されている沖ノ鳥島調査や、漁協からの依頼で行う硫黄島列島周辺海域の調査等で2-3カ月に一度、泊まりの航海があります。



Q2) 各センターには海技職のほかどんな職員がいますか？

A2) 各センターは主に研究職、事務職、海技職、無線職、会計年度任用職で構成されています。海技職も、船上作業だけではなく、漁獲したサンプルの測定作業や水族館の飼育生物の釣獲・飼育補助など、センターの各職員と協力して業務を行います。

Q3) 海技士資格を持っていないのですが、調査船の業務に興味があります。応募できますか？

A3) 東京都では、海技士資格（航海4～6級、機関4～6級、電子通信4級）の資格取得には全額または一部補助が出ます。甲板員や司厨員として採用され、働きながら海技士免許を取得後、乗船履歴を積み、船長や機関長を目指すことも可能です。実際に、東京都の調査船では元教員や元ダイビングインストラクターが海技士資格を取得し、海技職員として活躍しています。

Q4) 海技士免許以外に取得できる資格はありますか？

A4) フォークリフト、玉掛け、小型移動式クレーン、有機溶剤、研材砥石、アーク溶接等の船上作業や陸上作業で使用する各資格を取得することができます。

Q5) 女性でも応募は可能でしょうか？

A5) 機関業務や船の運航以外にも、調査時の漁撈作業などの力仕事をしなければならぬので、ある程度の体力と根気は必要になります。しかし、漁撈作業はチームで行うため、自分のできる範囲で作業ができれば問題ありません。また、船内には女性用の船室、シャワー室も完備されているので、泊まり調査の時でも安心です。

Q6) 東京都の他の島の調査船に異動することはできますか？

A6) 可能です。しかし、他の調査船の人員異動状況にもよるので、希望通りの調査船に配属されるとは限りません。

Q7) 島の宿舎はどのような感じですか？

A7) 独身・単身者用の1DK、家族用の2DKの部屋があります。

Q8) 内地にはどれぐらいの頻度で帰れますか？

A8) 年休を使えば、航海に支障が出ない範囲内で帰省することが可能です。
また、資格取得や年1回のドックでは出張扱いで内地に行きます。

